

福井県丹生郡越前町のダム湖で確認された大型淡水貝類

有馬達也*・清水彩香**・清水香里**

A record of large freshwater Mollusca from a dam lake in Echizen-cho, Fukui Prefecture, Japan.

Tatsuya ARIMA*, Sayaka SHIMIZU** and Kaori SHIMIZU**

(要旨) 2023年3月から5月にかけて、丹生郡越前町八田の開谷ダムのダム湖からマシジミ、カワニナ、オオタニシの死殻が採集された。マシジミとカワニナは過去の採集記録と比較しても大型の個体が多数見られた。

キーワード：マシジミ、カワニナ、オオタニシ、ダム湖、越前町

福井県ではこれまで16科42種の淡水貝類が記録されており、このうち23種が県のレッドリストに記載されている(福井県安全環境部自然環境課, 2016)。マシジミ *Corbicula leana* (Prime) は山間部の河川や農業用水路など県内各地の広い範囲に生息していたが、外来種であるタイワンシジミ *C. fluminea* (Müller) の侵入による置き換わりなどが原因で大きく数を減らしており、県域絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。主に湖沼やため池などの大型水域に生息するオオタニシ *Heterogen japonica* (Martens) も、生息地の開発などによる減少が懸念されている。カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould) は河川や農業用水路などで今でも普通に見られるが、ゲンジボタルの幼虫の餌となることから各地で移入・放流が行われており、遺伝子の攪乱や外来種の混入といった問題が指摘されている(浦部, 2007)。

今回、これらの淡水貝類について、越前町のダム湖から標準的なサイズと比べて大型の死殻が多数採集されたので、報告する。

採集地は、丹生郡越前町八田の開谷ダム(八田ダム)のダム湖である。周囲数ヶ所から山水が流入し、日野川の支流である和田川へと流れている。2022年7月8日から2023年5月31日まで行われた放流ゲートの改修工事によってダム湖の水位が下がり、数ヶ月に渡って湖底が露出した(図1)。2023年3月以降にダム湖内を調査した結果、多数のマシジミの貝殻が確認できたほか、数は少ないがカワニナとオオタニシも採集することができた。マシジミとカワニナは死殻のみであったが、オオタニシについては生体も確認することができた。



図1. 採集地。露出した湖底の中心を縦断する形で河川状に水が流れている。

・マシジミ *Corbicula leana* (Prime)

殻長40mm以上の個体が多数採集され、最大で49.3mmに達した。離弁のものも多いが、合弁で見つかった個体も少なくない(図2, 3)。

一般的なマシジミは殻長20~30mm程度だが環境の違いによる形態変異が大きく、閉鎖された池沼では50mmにもなるとされる(福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会, 1998)。坂井市三国町でも殻長40mm以上の大型個体が採集されているが生息数は少なく(川崎ほか, 2016)、福井市自然史博物館には長野県産の数個体を除いて殻長40mmを超える標本は収蔵されていなかった。

ダム湖の水の流出地点周辺では、生体を含む小型のシジミ類が確認された(図4)。これらは大きなものでも殻長15mm前後で、ダム湖内の同サイズ個体と比べて殻表面もやや黄色いことからタイワンシジミの可能性はあるが、両種は形態が非常によく似ており識別は困難を要する(増田・内山, 2004)ためダム湖内の集団との関係性は不明である。

*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井県福井市足羽上町147

*Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui-shi, Fukui 918-8006, Japan

**福井市自然史博物館友の会 〒918-8006 福井県福井市足羽上町147

**Friends Membership of Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui-shi, Fukui 918-8006, Japan

地元の方々によると、八田地区で確認された“シジミ”としては20年前の水田でドブシジミが見られた程度で、マシジミやタイワンシジミについては知られていないようである。



図2. マシジミ死殻の産出状況.

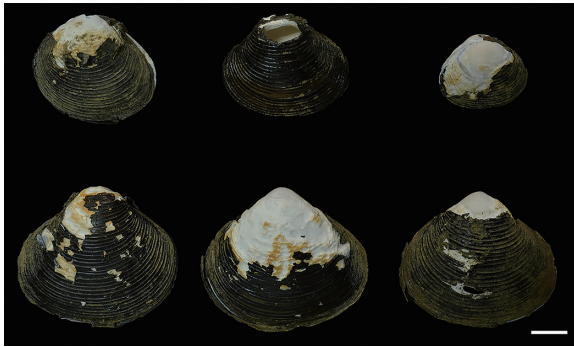


図3. 採集されたマシジミ (FCMNH-Mo3176).
スケール：10mm.

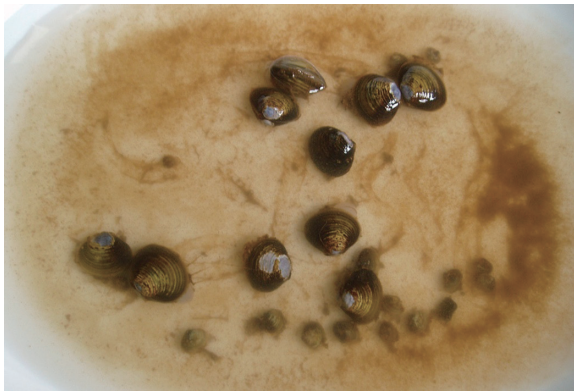


図4. ダム湖の流出地点周辺で確認されたシジミ生体.

・カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould)

カワニナは3個体を採集した(図5)。いずれも螺層が大きく欠損しているが、最大個体で殻高49.5mm、体層37.7mm、殻径21.5mmであった。

通常カワニナは成貝で殻高25~35mmだが生息地毎の変異が著しく(紀平ほか, 2003)、大型の個体はオオカワニナの異名で呼ばれることもある。福井市自然史博物館に鯖江市、越前市(旧吉野村)、あわら市(旧剣岳村)、大野市から採集された殻高40mm以上の「オオカワニナ」の標本が収蔵されているほか、坂井市(旧丸岡町)や越前市(旧武生市)では殻高58mmにもおよぶ「オオカワニナ」が確認されたという記録がある(福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会, 1998)。



図5. 採集されたカワニナ (FCMNH-Mo3178).
スケール：10mm.

・オオタニシ *Heterogen japonica* (Martens)

オオタニシは3個体を採集した(図6)。このうち2個体は大きく破損し、体層部分はほぼ失われていた。欠損の少ない1個体は殻高62.8mmで、オオタニシの成貝としては標準的な大きさである。

オオタニシは死殻のほか、ダム湖内の小さな堰となる場所で生体も確認することができた(図7)。



図6. 採集されたオオタニシ (FCMNH-Mo3177).
スケール：10mm.



図7. オオタニシ生体.

謝 辞

本稿の執筆にあたり、福井鐵工株式会社・越前町役場・福井県庁の方々にはダム湖での調査・採集において多くの配慮・助言をいただいた。NPO法人中池見ねっとの藤野勇馬氏には淡水貝類の同定をしていただいた。井上幸子氏をはじめ八田地区の方々には地区内でのシジミの生息状況について情報をいただいた。ここに厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編, 2016, 改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県安全環境部自然環境課, 536p.
- 福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会編, 1998, 福井県の陸水生物. 福井県県民生活部自然保護課, 203p.
- 川崎隆徳・川内一憲・田中幸枝・小鍛治優・木元久・藤井豊, 2016, 福井県におけるシジミ (*Corbicula*) の生息状況の中間報告 (2008-2014) - タイワンシジミ (*Corbicula fluminea*) の侵入の脅威 -. 福井大学医学部研究雑誌, 16(1), 51-60.
- 紀平肇・松田征也・内山りゅう, 2003, 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類. ピーシーズ, 159p.
- 増田修・内山りゅう, 2004, 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 240p.
- 浦部美佐子, 2007, 本邦におけるコモチカワツボの現状と課題. 陸水学雑誌, 68(3), 491-496.

有馬 達也・清水 彩香・清水 香里